

科目名	商品製作	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	実習60% 調査20% 講義20%
時間数	180	作成者	高木義隆

【科目の到達目標】

現在の市場を意識した商品のデザインと実習作品で商品サンプルを製作する。
また、商品についてのプレゼンテーション書類を作成し発表する。

【科目の概要】

市場分析などマーケティング的な観点から素材選定、パターン、デザインを企画し、実習作品を制作する。
また、現実的な商品を意識しながら企画できるように工場や産地見学、市場調査などを実施する。
アパレルに関する「川上から川下」工程をミニマムに一気通貫で実践的に学ぶ。産学官連携。

【授業計画】

90分/コマ	前期	後期
1 2 3	「商品製作」とは(産学官連携企画)	46 47 48 ニット産地研究1
4 5 6	都市形成と産業構造の変化	49 50 51 北陸ニット・眼鏡産地研修(1泊又は2泊)
7 8 9	素材・製品産地研究1	52 53 54 北陸ニット・眼鏡産地研修(1泊又は2泊)
10 11 12	素材・製品産地研究2	55 56 57 北陸ニット・眼鏡産地研修(1泊又は2泊)
13 14 15	産地研究の発表	58 59 60 学×学連携
16 17 18	泉州タオル産地の取り組み(SDGS)	61 62 63 学×学連携(校外学習)
19 20 21	泉州タオル産地見学(校外学習)	64 65 66 学×学連携
22 23 24	オーガニックコットン企画	67 68 69 学×学連携
25 26 27	オーガニックコットン企画	70 71 72 学×学連携
28 29 30	オーガニックコットン企画	73 74 75 商品製作(アパレル製造)
31 32 33	オーガニックコットン企画	76 77 78 商品製作(アパレル製造)
34 35 36	オーガニックコットン企画	79 80 81 商品製作(アパレル製造)
37 38 39	企業プレゼンテーション(リハ)	82 83 84 商品製作(アパレル製造)
40 41 42	企業プレゼンテーション	85 86 87 商品製作(アパレル製造)
43 44 45	前期末試験	88 89 90 後期末試験
	授業の順や内容は年度により変更あり ※産学官連携がない場合はドレーピング	授業の順や内容は年度により変更あり ※産学官連携がない場合はドレーピング

【成績評価方法】

提出物評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

『洋裁』服飾手帖社刊など適宜

【教材・教具】

実習用具一式 製図用具一式 筆記用具 コンピュータなど適宜

科目名	ファッションビジネスプランニングⅠ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 70% 実習 30%
時間数	120	作成者	井垣 敦資

【科目の到達目標】

ファッションビジネスの観点から生活者とファッションの関係性を探り、特性や構造について理解し考察できる。社会に出た時に活用できる能力を養うことを目標とする。

【科目の概要】

アパレルを中心としたファッションビジネスシーンで活躍できる為の基礎知識を教授する。ファッションビジネスの特性と歴史、その構成産業の構造を現場で求められる実例を踏まえて理解する。アパレル業界の現状と問題点を分析し、今後の展望を考察する。

【授業計画

90分/コマ

前期	後期
1・2 ファッションビジネス事業の特性	31・32 経営戦略について
3・4 歴史から学ぶファッションビジネス	33・34 FASHIONビジネスの計数管理
5・6 変容するファッションビジネス	35・36 マーチャンダイジング
7・8 ファッションビジネスの業界構造について	37・38 バイイング
9・10 マーケティングの要素と消費行動	39・40 販売戦略
11・12 マーケティングの基礎	41・42 事業計画書①
13・14 ブランディング	43・44 事業計画書②
15・16 企業の社会的責任(CSRやCSVについて)	45・46 ビジネスプラン2 草案 面談
17・18 ビジネスモデルの概要	47・48 ビジネスプラン2 草案 面談
19・20 ビジネスプランと企画書類作成の流れ説明	49・50 ビジネスプラン2 作成①
21・22 ビジネスプラン1 作成①	51・52 ビジネスプラン2 作成②
23・24 ビジネスプラン1 作成②	53・54 ビジネスプラン2 作成③
25・26 ビジネスプラン1 作成③	55・56 ビジネスプラン2 作成④
27・28 ビジネスプラン1 プレゼン発表	57・58 ビジネスプラン2 プレゼン発表
29・30 前期まとめ 試験	59・60 後期まとめ 試験

【成績評価方法】

課題 60% 試験 30% 出席率、授業態度 10%

【教科書・参考書】

プリントを配布

【教材・教具】

筆記用具

科目名	ファッションデザイン&プランニング I	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 50% 実習 50%
時間数	60	作成者	杉山佳美

【科目の到達目標】

ビジネス的な観点から捉えたファッションとアパレルデザインに関する知識を講義と演習により修得する
また、任意に想定したアパレル企業向け商品の企画提案書類をコンピュータを使って作成できる。
後期には、チームによるオリジナル商品企画制作を学び、各セクションの役割とグループワークを把握させる。

【科目の概要】

変化する消費者の価値観を捉え、アパレル商品をマーケティング的視点でブランドトータルにデザインする。
書類作成に必要なコンピュータの操作とアプリケーションの解説と演習。
後期には、グループ制作によるブランド企画を展示形式で発表し、企画書類にしてプレゼンテーションする。

【授業計画】

90分/コマ		前期	後期
1	地域コラボ ログデザイン①		16 photoshop演習
2	地域コラボ ログデザイン②		17 photoshop演習
3	地域コラボ ログデザイン③		18 photoshop演習
4	フィレンツェ事前学習		19 外部コンテストデザイン 1
5	フィレンツェ事前学習		20 外部コンテストデザイン 1
6	フィレンツェ事前学習		21 外部コンテストデザイン 2
7	フィレンツェ事前学習		22 外部コンテストデザイン 2
8	フィレンツェ研修レポート①		23 ビジネスプランニング①
9	フィレンツェ研修レポート②		24 ビジネスプランニング②
10	プレゼンテーション		25 ビジネスプランニング③
11	ビジネスプランニング①		26 ビジネスプランニング④
12	ビジネスプランニング②		27 ビジネスプランニング⑤
13	ビジネスプランニング③		28 ビジネスプランニング⑥
14	ビジネスプランニング④		29 ビジネスプランニング⑦
15	テスト・まとめ		30 テスト・まとめ

【成績評価方法】

出席率10% 課題60% 試験30%

【教科書・参考書】

必要に応じてプリント配布 椎塚 武(ファッション業界戦略地図)

『スタイリングブック』グラフィック社

【教材・教具】

筆記用具 描画用具 ケント紙 ペン マーカー PC

配布レジュメ 講義内容をプロジェクタで投影

科目名	コンピュータ演習Ⅲ-A	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 20% 実習 80%
時間数	60	作成者	積高之

【科目の到達目標】

AiやPSなどのツールの学習を元に、さらに進んだツール作成とサイト作成を学び、実際に作成したものを公開する。SNS活用方法についても学習する。

【授業計画】

90分/コマ	前期	後期
1	ガイダンス PCスキルチェック	16 ECツールの概要
2	初期のツール解説 (Ⅲ-A、Ⅲ-B連続)	17 ECツールの選定
3	事業計画 (Ⅲ-A、Ⅲ-B連続)	18 サイト作成 基礎
4	EC化計画 基礎	19 サイト作成
5	EC化計画 ビジネスモデル	20 サイト作成
6	レポート / 発表	21 サイト作成
7	発表についての意見交換	22 コンテンツ作成
8	ブランドサイトの概要	23 コンテンツ作成
9	ブランドサイトの作成	24 コンテンツ作成
10	ブランドサイトの作成	25 コンテンツ作成
11	作成したサイトと、他のサイトの検討	26 発表
12	スキル調整 チームビルディング	27 発表
13	商品の検討 情報収集の方法	28 講評・購入
14	商品の検討 検索と比較	29 購入した結果発表
15	テスト / レポート	30 テスト / レポート

【成績評価方法】

提出物・発表評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

プリントを配布

【教材・教具】

筆記用具/PC/スマートフォン

科目名	コンピュータ演習III-B	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 40% 実習 60%
時間数	60	作成者	積高之

【科目の到達目標】

ビジネスの計画を学ぶことにより、解析すべきデータの重要性を知る。
 ウェブ解析をすることによってツールの学習を行う。
 SNSの効果測定もできるようになり、事業全般のデータハンドリングを知る。

【科目の概要】

ビジネス領域でのデータの扱いは益々重要になってきているが、実践的な知識を学習する機会は少ない。
 この講義では、実際のデータを扱いながら、その解析方法や活用方法について学び、実務に生きるスキルを身につける。

90分/コマ	前期	後期
1	ガイダンス PCスキルチェック	16 解析レポートの作成
2	初期のツール解説 (III-A、III-B連続)	17 解析レポートの作成 レポート提出
3	事業計画 (III-A、III-B連続)	18 SNSの概要説明
4	ビジネスモデルの考え方	19 SNS運用の実際
5	ビジネスモデルの作成	20 SNS運用計画書の解説
6	ビジネスモデルの作成	21 SNS運用計画書の作成
7	発表	22 SNSの解析
8	ウェブ解析の概論	23 SNSの解析
9	ウェブ解析士協会 代表理事講義	24 総合的なデータ収集
10	ウェブ解析基礎	25 総合的なデータ収集 (III-Bで作成したサイト)
11	ウェブ解析基礎	26 総合的なデータ収集 (III-Bで作成したサイト)
12	ウェブ解析の実際	27 データ活用方法
13	ウェブ解析の実際	28 データ活用方法
14	ウェブ解析の実際	29 データ活用方法
15	テスト	30 テスト

【成績評価方法】

提出物・発表評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

プリントを配布

【教材・教具】

筆記用具/PC/スマートフォン

科目名	ワークショップ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	前期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 50% 実習 50%
時間数	60	作成者	高木義隆

【科目の到達目標】

現在進行形で活躍するゲスト講師から刺激を受け、学生のクリエイションやプランニングに活かす事を目的とし更には卒業後のキャリア形成に向けた視野を広げると共に、これからのファッション業界をはじめとする様々な分野での活躍を促進するきっかけとなる様に努める。

【科目の概要】

基本的に毎回異なるゲストスピーカーの講義やワークショップを行う。
学内の教員でFP学科生と交わる機会のない人材や、学外で活動されている企業・公人・様々な分野のクリエイター等の多岐に渡るゲストを迎え入れ、レギュラー科目外の刺激や視座を与える目的である。

【授業計画】

90分/コマ

- 1 ①ゲストスピーカー講義 素材産地企業(産学連携パートナー)
- 2 ワークショップと成果発表又はレポート
- 3 ②ゲストスピーカー講義 素材産地企業(産学連携パートナー)
- 4 ワークショップと成果発表又はレポート
- 5 ③ゲストスピーカー講義 社会活動(LGBT)
- 6 ワークショップと成果発表又はレポート
- 7 ④ゲストスピーカー講義
- 8 ワークショップ グループ製作
- 9 ⑤ゲストスピーカー講義
- 10 ワークショップと成果発表又はレポート
- 11 ⑥ゲストスピーカー講義
- 12 ワークショップ グループ発表 フィードバック
- 13 ⑦ゲストスピーカー講義
- 14 ワークショップ又はレポート
- 15 ⑧ゲストスピーカー講義
- 16 ワークショップ又はレポート
- 17 ⑨ゲストスピーカー講義
- 18 ワークショップ又はレポート
- 19 ⑩ゲストスピーカー講義
- 20 ワークショップ又はレポート
- 21 ⑪ゲストスピーカー講義
- 22 ワークショップ又はレポート
- 23 ⑫ゲストスピーカー講義
- 24 ワークショップ又はレポート
- 25 ⑬ゲストスピーカー講義
- 26 ワークショップ又はレポート
- 27 ⑭ゲストスピーカー講義
- 28 ワークショップ又はレポート
- 29 ⑮ゲストスピーカー講義
- 30 ワークショップ又はレポート

【成績評価方法】

提出物評価60% 発表30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

ゲスト講師により適宜

【教材・教具】

ゲスト講師により適宜

科目名	プレゼンテーション技術		
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100% 実習 %
時間数	60	作成者	佐藤紫乃

【科目の到達目標】

テーマに応じてプレゼンテーションを企画し、相手の心を動かすことができる人材を育成する。

【科目の概要】

ビジネスの場では企画力・アイデア力、それを伝える力が求められている。
この授業では、プレゼンテーションの企画構成・原稿作成・ビジュアル作成・話し方の方法を実践を通して学ぶ。

【授業計画】

90分/コマ		前期	後期
1	前期授業概要オリエンテーション	16	前期振り返り・授業概要オリエンテーション
2	プレゼンテーション基礎講義	17	個人プレゼンテーション テーマ決定、企画
3	グループプレゼンテーション テーマ決定、企画	18	個人プレゼンテーション 企画
4	グループプレゼンテーション 企画	19	個人プレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成
5	グループプレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成	20	個人プレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成
6	グループプレゼンテーション リハーサル・最終確認	21	個人プレゼンテーション リハーサル・最終確認
7	グループプレゼンテーション発表①	22	個人プレゼンテーション発表① * 2コマ連続
8	グループプレゼンテーション振り返り①	23	個人プレゼンテーション発表①
9	グループプレゼンテーション テーマ決定、企画	24	個人プレゼンテーション テーマ決定、企画
10	グループプレゼンテーション 企画	25	個人プレゼンテーション 企画
11	グループプレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成	26	個人プレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成
12	グループプレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成	27	個人プレゼンテーション 原稿 ビジュアル作成
13	グループプレゼンテーション リハーサル・最終確認	28	個人プレゼンテーション リハーサル・最終確認
14	グループプレゼンテーション発表②	29	個人プレゼンテーション発表② * 2コマ連続
15	グループプレゼンテーション振り返り②	30	個人プレゼンテーション発表②

【成績評価方法】

提出物評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

プリントを配布、自作のパワーポイント

【教材・教具】

筆記用具

科目名	英語Ⅲ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	通年
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 80% 実習 20%
時間数	60	作成者	佐藤柴乃

【科目の到達目標】

海外研修にて、簡単な英語を用いて伝えたいことを英語で伝えることができる人材を育成する。

【科目の概要】

英語コミュニケーション習得に必要な基礎的インプットとアウトプットを学ぶ。発音、中学英語レベルの語彙力と文法を身につけ、それらを用いてリスニングとスピーキングができる力を鍛える。前期では英語の基礎となる発音と文法、後期はリスニングとスピーキングに重点を置く。

【授業計画】

90分/コマ		前期	後期
1	オリエンテーション、基礎力判定テスト	16	オリエンテーション、基礎力判定テスト
2	発音記号	17	リスニング①、ディクテーション
3	発音①、語彙	18	リスニング②、ディクテーション
4	発音②、語彙	19	リスニング③、ディクテーション
5	発音③、語彙	20	リスニング④、ディクテーション
6	発音④、語彙	21	リスニング小テスト
7	発音小テスト	22	個人スピーチ: テーマ決定、内容作成
8	英文法: 英語の語順おさらい、名称の複数・単数	23	個人スピーチ: 内容作成、練習
9	英文法: 英語で使う * * 詞とその役割	24	個人スピーチ: 発表
10	英文法: 動詞の種類と変化、助動詞	25	グループプレゼンテーション: テーマ決定、内容作成
11	英文法: 英語の時間の考え方	26	グループプレゼンテーション: 内容作成
12	英文法: 便利な不定詞と動名詞	27	グループプレゼンテーション: 内容作成、練習
13	英文法: 同格・比較・最上級	28	グループプレゼンテーション: 練習
14	英文法おさらい	29	グループプレゼンテーション発表
15	期末テスト	30	海外研修現地実践課題 * 課題2月中提出

【成績評価方法】

提出物評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

自作のパワーポイントスライド、プリントを配布

参考書: 総合英語「Evergreen」いっずな書店編集部、2017年1月15日刊行

【教材・教具】

筆記用具、A6もしくはB7サイズノート、スマートフォン、プロジェクター

科目名	キャリアデザインII	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	前期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 50% 実習・演習 50%
時間数	30	作成者	今 恒男

【科目の到達目標】

本格的な就職活動開始に向けて、自分が何を準備し、それをどのように表現して相手に伝えるべきかを、キャリアデザインIで整理した自分自身の情報をもとに考え、整えます。
同時に企業で実施されるインターンシップについても、積極的に参加するための心構えを身に付けます。

【科目の概要】

自分自身が描くキャリアを実現に近づけるため、採用する側の目線に立ち、自分自身の何を伝えるべきかを考えます。また、同年代の学生に負けないアピールのあり方を知るとともに、実践的な演習に取り組みながら等身大の自分をプレゼンテーションできる力を身に付けます。

【授業計画】

90分/コマ

- 1 ・就職活動の心構え
就職活動の取り組み方、基本マナーの習得 (返事、あいさつ、姿勢、お辞儀)
- 2 ・コミュニケーションの基本①
「聴く力」と「伝える力」
- 3 ・コミュニケーションの基本②
コミュニケーション・トレーニング
- 4 ・「就職の軸」を考える
仕事の優先順位とこだわりの優先順位を考える
- 5 ・企業研究のすすめ方
企業研究を行うポイントとその方法
- 6 ・企業研究実践
実際に企業研究を行い、企業の特徴や仕事の具体的内容を調べてみる
- 7 ・自己PR作成
自分自身のアピールポイントを文章で表現する
- 8 ・志望動機作成
志望企業の応募理由を明確に文章で表現する
- 9 ・応募書類を作成する①
履歴書編
- 10 ・応募書類を作成する②
エントリーシート編
- 11 ・企業インターンシップの参加について
インターンシップ参加の形式と目的、および準備の整え方
- 12 ・面接選考の考え方
企業目線での面接選考を理解し、そのために必要なことを考える
- 13 ・面接選考対策①
個人面接およびグループ面接
- 14 ・面接選考対策②
グループディスカッション
- 15 ・就職活動のまとめ
就職活動の目標と、明日からの具体的行動目標を設定する

【成績評価方法】

- ◎課題・提出物 50%
- ◎試験（修業試験、確認テスト） 20%
- ◎授業態度 30%

【教科書・参考書】

『自分で「考え」、自分で「動く」 キャリアテキスト』 株式会社パーソナルヴィジョン研究所・著
※2年次購入済

【教材・教具】

各種ワークシート

科目名	縫製工学	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100 % 実習 0 %
時間数	30	作成者	相馬成男

【科目の到達目標】専門学校では注文服(オートクチュール)作りを主体に履修するが、社会へ出ると既製服(プレタポルテ)が主流であり、工業生産的もの作りの道理、実務工程の知識を習得し、自分を取り巻く関係者と円滑に意思疎通が図れる技術者を目指す。

【科目の概要】国内繊維産業は長年の厳しい国際競争の中で、①高機能・高性能繊維、②高品質・高感性の素材、③精緻な縫製技術の3点が強みとしてあげられているが、衣料品の輸出は先進国の中で極めて少ない。一方で持続可能な開発目標(SDGs)達成が掲げられており、これら現状認識をしながら、アパレル企業が行う技術的業務の基礎知識をテキスト、パワーポイント及び動画と適宜配布資料を用いて講義を進める。

【授業計画】 90分/コマ	前期	後期
		第1週 第1章 アパレル産業の歴史と変遷 第11章 世界と日本の繊維生産
		第2週 第2章 アパレル製品の商品企画
		第3週 第3章 アパレル製品の副資材 - 1
		第4週 第3章 アパレル製品の副資材 - 2
		第5週 各論 第3章 スポーツウエア
		第6週 第4章 アパレル製品用材料の 試験と検査
		第7週 第5章 アパレル製品の縫製 と二次加工
		第8週 各論 第4章 下着(インナーウエア) 各論 第5章 靴下
		第9週 第6章 アパレル製品の検査 と品質管理
		第10週 第7章 アパレル製品の安全・安心
		第11週 各論 第1章 紳士服 - 1
		第12週 第8章 アパレルの表示と関連法規
		第13週 第9章 アパレル製品の洗濯 とメンテナンス
		第14週 各論 第1章 紳士服 - 2 各論 第2章 婦人服
		第15週 第10章 アパレル製品の品質管理 と消費者対応

【成績評価方法】

毎回講義後の課題(宿題)の評価:50%、期末試験:40%、授業態度:10%

【教科書・参考書】

編集:一社団法人 日本繊維技術士センター、『業界マイスターに学ぶ「アパレルの基礎知識」』、
発行所:金壽堂出版有限会社、発行日:2020年7月3日

【教材・教具】

筆記用具

科目名	知的財産法	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 100%
時間数	30	作成者	小柴 昌也

【科目の到達目標】

本講義では、私たちの生活と関連のある法律の仕組みと本質について見極め、特にファッションと知的財産法(商標・意匠・著作権など)がどのような関係にあるかを判断できるリーガルマインドを構築することを目標とする。また、授業内容は、国家資格でもある「知的財産管理技能士」の三級取得を念頭においたものとする。

【科目の概要】

知的財産は、ファッション業界のような企業活動だけでなく、日常生活とも密接な関係にある。また、現代では、その知的財産の保護と利用との間のバランスを図っている法律の役割が極めて重要となってきている。本講義では、ファッションを取り巻く知的財産を取り上げながら、現代社会における知的財産の法的枠組みを理論的・体系的に紹介する。

【授業計画】 90分/コマ

- 1 ガイダンス(講義の進め方など)、法律とは何か
- 2 ファッション業界を取り巻く法律(知的財産法を中心に)
- 3 特許法・実用新案法 目的・保護対象・要件・手続き・活用・侵害
- 4 意匠法(1)目的・保護対象・要件・手続き・活用・侵害
- 5 意匠法(2)ファッションとの関連
- 6 商標法(1)目的・保護対象・要件・手続き・活用・侵害
- 7 商標法(2)ファッションとの関連
- 8 著作権法(1)目的・保護対象・著作者・著作者人格権
- 9 著作権法(2)財産権・著作隣接権・侵害
- 10 著作権法(3)ファッションとの関連
- 11 ネットショップ関連法規(会社の設立からネットショップ構築・運営まで)
- 12 国際的な取引における知的財産(条約)
- 13 その他の知的財産に関する法律
- 14 まとめ
- 15 試験

【成績評価方法】

期末試験 50% 授業態度 50%

【教科書・参考書】

知的財産管理技能検定 3級公式テキスト[改訂12版] アップロード (2021/7/11)

※最新のもの

【教材・教具】

PC ディスプレイ(大型TV)

科目名	消費者行動学	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	前期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義80%実習20%
時間数	30	作成者	太田 博

【科目の到達目標】

消費社会に於ける人間の行動原理を心理学的側面と行動経済学的側面から理解する

【科目の概要】

販売心理・社会心理の概論学習
 心理学的背景に基づく人間の消費行動を体系的に学習

【授業計画】

90分/コマ

- 1 販売心理・購買心理
- 2
- 3
- 4 試験(提出物扱い)
- 5 社会心理
- 6
- 7
- 8 試験(提出物扱い)
- 9
- 10 認知バイアスの理解 ナッジ理論の理解
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15 期末試験(提出物扱い)

【成績評価方法】

提出物評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

講義

【教材・教具】

科目名	人的資源論	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義80%実習20%
時間数	30	作成者	太田 博

【科目の到達目標】

「人的資源」を最大限生かすための「動機づけ」と「リーダーシップ」の意味を正しく理解する

【科目の概要】

「動機づけ」6分類とその考え方を理解し、実践的に応用ができるように学習する
リーダーシップの基本概念・リーダーシップの実践・さらにリーダーシップの先にあるものについて考察する

【授業計画】

90分/コマ

- 1 単純動機づけ
- 2 人材育成型動機づけ
- 3 目標設定型動機づけの学習と理解
- 4 試験(提出物扱い)
- 5 意思決定型動機づけ
- 6 自己管理型動機づけ
- 7 発想転換型動機づけの学習と理解
- 8 試験(提出物扱い)
- 9 リーダーシップ基本概念の理解
- 10
- 11 リーダーシップの実践とは
- 12
- 13 リーダーシップの先にあるものとは
- 14
- 15 期末試験(提出物扱い)

【成績評価方法】

提出物評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

【教材・教具】

科目名	論文基礎研究	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	講義 30% 実習 70%
時間数	30	作成者	高木義隆

【科目の到達目標】

クリエイティブな表現から始まり、感性的な分野を論理的に分析できる力を身に付け、様々な事象から課題の発見と、その解決策を考える事のできる人材育成を目指す。

【科目の概要】

FP学科4年次の「卒業論文」の為の事前学習。4年次での自分野の研究テーマを絞り込む為に、論文の基礎的なマナーや書式を学ぶ。FP学科卒生の強豪は大卒者なので、遜色のない知識とスキルを身に付ける。

【授業計画】

90分/コマ

- 1 **論文とは**
論文・小論文・レポート・随筆・作文、、、との違いについて
- 2 **卒業生の論文を読んでみる**
論文のマナーや書式について
- 3 **文書トレーニング①**
一般論文を読んで要約文を作成する
- 4 **文書トレーニング②**
一般論文を読んで要約文を作成する
- 5 **事例研究①**
ファッション関連の研究を解読する
- 6 **事例研究②**
ファッション関連の研究を解読する
- 7 **調査方法①**
テキストデータ収集の方法とルール
- 8 **調査方法②**
定量的データ収集の方法とマナー
- 9 **分析方法**
SWOT、アンケート、ヒアリングの分析方法
- 10 **分析結果の視覚化**
図表やグラフ、ポジショニングマップ等のビジュアル化
- 11 **研究テーマ設定①**
研究テーマとしてふさわしい条件、研究箇所の絞り込み方
- 12 **研究テーマ設定②**
自分野の先行研究を探す(論文・著書・WEB等)
- 13 **研究テーマ設定③**
自分野の先行研究を探す(論文・著書・WEB等)
- 14 **卒業論文テーマ発表(テスト)**
研究テーマ、課題、問いについて
- 15 **評価と次年度までの準備**

【成績評価方法】

提出物評価60% テスト30% 授業態度10%

【教科書・参考書】

石黒圭(2020)「この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本」日本実業出版社
レジュメ等適宜に配布

【教材・教具】

PC、ノート、筆記具、書籍。論文等

科目名	海外研修Ⅰ	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期末 8日間
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	リサーチ50% 講義50%
時間数	60	作成者	高木義隆
【科目の到達目標】 研修先に赴き、現地の言語での講義を受講し、マーケティングやマーチャンダイジング等の知識を得る。 帰国後、現地の市場をリサーチした内容をプレゼンテーション発表する。			
【科目の概要】 学校の授業で得たビジネス及びマーケティング等の知識と、英会話を基に現地の市場を視察、調査する。 更に世界のトップブランドの生産工場見学で、川上から川下までの全体像を窺う。 また、海外のファッション都市の文化的背景やファッション市場の知見を広め、今後のビジネス展開に生かす。			
【授業計画】 90分/コマ <ol style="list-style-type: none"> 1 研修施設での講義受講 (装飾美術館・現地ファッションスクールでの授業) 2 研修施設での講義受講 (現地ファッションスクールでの授業) グッチミュージアム鑑賞 3 研修施設での (現地ファッションスクールでプレゼンテーション) 市街地リサーチ 4 研修先 (クラッチバッグの生産工場見学・現地ファッションスクールの視察) 市街地リサーチ 5 研修先 (ウフィツィ美術館鑑賞) 施設リサーチ 6 リサーチレポートまとめ (グループワーク) 7 リサーチレポートまとめ (グループワーク) 8 発表 (海外研修報告会) 			
【成績評価方法】 研修後のリサーチ課題発表 100%			
【教科書・参考書】			
【教材・教具】 筆記用具 カメラ コンピュータなど			

科目名	海外研修II	整理番号	
学科	ファッション・プロデュース学科	期	後期末 8日間
コース	ファッション・プロデュースコース		昼間
学年	3年	授業形態	リサーチ50% 講義50%
時間数	60	作成者	上田久美子

【科目の到達目標】
 研修先に赴き、現地の言語での講義を受講し、マーケティングやマーチャンダイジング等の知識を得る。
 帰国後、現地の市場をリサーチした内容をプレゼンテーション発表する。

【科目の概要】
 学校の授業で得たビジネス及びマーケティング等の知識と、英会話を基に現地の市場を視察、調査する。
 更に世界トップブランドのビジネスの最先端で、川上から川下までの全体像を観る。
 また、海外のファッション都市の文化的背景やファッション市場の知見を広め、今後のビジネス展開に生かす。

【授業計画】 90分/コマ

- 1 研修施設での講義受講 (NYコレクション見学・現地ファッションスクールでの授業)
- 2 研修施設での講義受講 (現地ファッションスクールでの授業) メトロポリタン美術館鑑賞
- 3 研修施設での (現地ファッションスクールでプレゼンテーション) 市街地リサーチ
- 4 研修先 (北米本社初ブランド企業の研修・現地ファッションスクールの視察) 市街地リサーチ
- 5 研修先 (MOMA美術館鑑賞) 施設リサーチ
- 6 リサーチレポートまとめ (グループワーク)
- 7 リサーチレポートまとめ (グループワーク)
- 8 発表 (海外研修報告会)

【成績評価方法】
 研修後のリサーチ課題発表 100%

【教科書・参考書】

【教材・教具】
 筆記用具 カメラ コンピュータなど